

13日(金)満蒙開拓平和記念館役員会/記念館

8.22日(日)2. 3世向け日本語教室/阿智村公民館

19日に予定しておりました高齢者帰国者サロンは中止します

帰国2世と語る「映像」

映像について語る(右から)内山直樹さん、汪楠さん、大塚栄子さん、阿智村



10代半ばで中国から日本に来た帰国2世2人と、2人をそれぞれ短編映像に収めた内山直樹さん(37)のトークセッションが、阿智村の満蒙開拓平和記念館であった。テーマは「『私と、彼ら』から『私たち』へ〜帰国者2世とともにドキュメンタリーの可能性を拓く〜」。

阿智村の満蒙開拓平和記念館でトーク

内山さんは制作会社「テムジン」のディレクター。「ドキュメンタリーは生身の他者がいないと成立しない。その人の尊厳や生を傷つける危険もある。では自分の存在の意味は何か。常に考えさせられる」

汪楠さんは、中国人の父と残留日本人孤児の継母らと1986年、日本へ。言葉がわからず中学校にもなじめなかった。同じ2世がいじめられると仕返しをするうち、愚連隊「怒羅権」を結成。裏社会にはまり、刑務所で服役す

「私は国に棄てられた子どもの子ども」と自己紹介も

映像は現在、受刑者に本を贈ることで更生を支援している汪さんの活動に焦点をあてた。大勢の人の前で過去も包み隠さず語る汪さん。ユーチューブで公開すると、「ネットに罵詈雑言が並んだ」(内山さん)。一方で「仲のいい人は1人もいない」という少年から「励まされた」という手紙も届いた。

もう1人の大塚栄子さんは、「私は国に棄てられた子どもの子ども」と自己紹介。母は入植した旧満州で両親を亡くし、ソ連軍からの逃避行で姉らとはぐれた。貧農の養女となり、その家の嫁に。1978年に帰国し一家を呼び寄せた。後に元中国残留婦人として国家賠償訴訟を起こす。

映像では「父にとって日本は何だったのだろう」とも振り返る。家族は仕事に追われる日々で、日本語がわからない父は家で1人、金魚鉢に話しかけていたという。大塚さんはテレサ・テンの「時の流れに身をまかせ」を歌う。「日本語、中国語、どっちも中途半端。これは大塚さんそのものだと思った」と内山さん。

汪さんは複数のテレビ局の取材も受け、「反省している今」を語るよう求められ断った経験がある。ドキュメンタリーについて内山さんは「外側から切り取って『○○問題』にするのは違う」という。「当事者の側から、考えをぶつけ合いなから、『そのまま』を伝えられないか」と語った。

(松下和彦)

↑【ピース Labo 冬期連続講座 2020 “2月22日開催より”】

(朝日新聞 2020年3月6日朝刊より転載)

飯田市主催等関連事業 相次いで中止!!

3月22日に開催予定であった「小さな世界都市 IIDA 地球村」は、新型コロナウイルス感染拡大を懸念して中止となりました。この事業は、飯田市かざこ子どもの森公園が主催する「もりもり文化祭」に合わせ、飯田国際交流推進協会が国際交流等を目的に開催するもので、飯田日中では中国帰国者の皆さんの応援をいただき、会場で水餃子を提供し、多くの皆さんとの交流を行ってまいりました。

また3月23日開催を予定していた飯田市主催中国帰国者交流会も、同じく新型コロナウイルスの関係で中止となりました。飯田下伊那の帰国者の皆さんが一堂に会する機会として楽しみにしていた方々もいたことでしょう。残念です。

来年はそれぞれの催しが盛大に開催されることを期待してします。

「新型コロナウイルス肺炎」に対する支援募金の結果について

飯田日中2月ニュースでお願いしました支援募金につきましては、個人会員9名の方からご協力をいただき、飯田日中協より追加支援を行い、合計30,000円を全国日中本部へ送金しました。

義援金は全国日中本部から 中国大使館へ届けられ、必要物品等の購入に当てられます。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

先月2月の活動日誌

6日(木)長野県日中女性員会新春のつどい/長野市

2、23日(日)2. 3世向け日本語教室/阿智村公民館

21日(金)小さな世界年IIDA実行委員会/飯田市